

名経大通信 第17号

2006年4月15日

名古屋経済大学

<http://www.nagoya-ku.ac.jp/>

- P1-2 **100周年 創立者**
日本の教育をリードした市邨芳樹
- P3-5 **短大に「放送ユニット」**
対談：小中陽太郎教授×野田昇司副学長
- P5 **「学ぶ喜びを」岡本経営学部長**
- P6 **合同ゼミスキーに112名参加**
- P7-8 **就職、こうして決めた**
- P9 **OBインタビュー**
「イラクでの4か月」
「カンボジアへ旅立ち」
- P10 **卒業生の「会計人会」発足**
新刊紹介



入学式 —より個性的、より創造的な人に— 卒業式

平成十八年度入学式は四月一日、市邨記念体育館で行われ、大学院百一名、大学四百八十四名、短期大学部二百十六名の計八百二名の新入生を迎えました。

市邨中学・高校吹奏楽部による記念演奏の後、「名古屋経済大学歌」の斉唱で開会。末岡学長が「社会に要求されているのは知識集中型でなく、個性的、創造的な



平成十七年度卒業式は三月十八日、市邨記念体育館で行われ、大学院六十一名が学位記を、大学三百九十二名、短期大学部二百八十六名が卒業証書を受けました。

末岡学長は「正しい知識に裏づけされた勇氣と使命感で活躍してください。留学生三十三名の皆さんは母国と日本の架け橋になって活躍されるよう期待します」と呼びかけました。

また、下記の人たちが学長賞を受けました。

人材であり、その育成が私大の使命です。感動的な体験を積み、これまでの自分と違う新しい自分を発見してください」と挨拶しました。

引き続き、山田寛人さん（経済学部）と大嶺綾香さん（短大部保育科）が代表して「豊かで楽しい学生生活を送りたいと思っています」と入学生宣誓をしました。



- 【大学】
 - 《学業が特に優秀》
 - 経済学部 現代経済学科 畢麗杰
 - 経営学部 経営学科 景睿、北島秀晃
 - 法学部 企業法学科 石塚愛美
 - 法学部 国際関係法学科 花城可光
 - 《学業が特に優秀で、TOEIC試験が高得点》
 - 法学部 企業法学科 藤岡利章
 - 経営学部 経営学科 仲島智、竹内秀典
 - 法学部 企業法学科 清水孝浩
 - 《学業が優秀で、TOEIC試験が高得点》
 - 経営学部 経営学科 周華林
 - 《学業が優秀で、各種資格を取得》
 - 法学部 企業法学科 池村光央
 - 《文化活動に顕著な功績》
 - 平成十六年度学生自治会委員長 中川陽介
 - 経済学部 現代経済学科 中川陽介
 - 【短期大学部】
 - 《学業が特に優秀》
 - 商経科 木邨奈緒美
 - 生活文化学科 柴田陽子
 - 現代コミュニケーション学科 土屋英恵
 - 《学業が特に優秀で、文化活動に顕著な功績》
 - 保育科 久保剛

2006(平成18)年度 予定表

| 前 期 | | | | 後 期 | | | |
|-----|-------|-----|-----------------------|-----|---------|-----|---------------|
| 月 | 日 | 曜日 | 行 事 | 月 | 日 | 曜日 | 行 事 |
| 4月 | 1日 | 土 | 入 学 式 | 9月 | 19日 | 火 | 後 期 授 業 開 始 |
| | 3日~6日 | 月~木 | オ リ エ ン テ ー シ ョ ン | 10月 | 21日・22日 | 土・日 | 大 学 祭 |
| | 10日 | 月 | 前 期 授 業 開 始 | 12月 | 23日 | 土 | 冬 期 休 業 開 始 |
| 5月 | 4日 | 木 | 学 園 創 立 記 念 日 | | 10日 | 水 | 冬 期 休 業 終 了 |
| | 20日 | 土 | 開 学 記 念 日 | 1月 | 24日 | 水 | 後 期 末 試 験 開 始 |
| 6月 | 3日 | 土 | 後 援 会 総 会 ・ 教 育 懇 談 会 | | 31日 | 水 | 後 期 末 試 験 終 了 |
| | 1日 | 火 | 前 期 末 試 験 開 始 | | 18日 | 日 | 卒 業 式 |
| 8月 | 8日 | 火 | 前 期 末 試 験 終 了 | 3月 | 21日 | 水 | 春 期 休 業 開 始 |
| | 9日 | 水 | 夏 期 休 業 開 始 | | 31日 | 土 | 春 期 休 業 終 了 |
| 9月 | 18日 | 月 | 夏 期 休 業 終 了 | | | | |

※お問い合わせ 大学：0568(67)0511(代) 短期大学部：0568(67)0616(代)

名経大通信 名古屋経済大学 短期大学部 第17号 平成18年4月15日発行 千484-8504 愛知県大山市内久保61-1 TEL.0568(67)0511(代)



「ラジオ」・「テレビ」 受け手から送り手へ



小中陽太郎客員教授

東京大学仏文科を卒業し、NHKのディレクターに。ベトナム戦争中は小田実らとベ平連を結成。1983〜84年、フルブライト交換教授。現在、TVコメンテーターをはじめ、幅広い分野で活動。著書の一つ「青春の夢―風葉と喬太郎」は、「昭和思想史の記念碑的作品」（加藤周一氏）と称賛される。1934年生まれ。

短期大学部「放送ユニット」開設に寄せて

対談

小中陽太郎教授 野田昇司副学長

本学短期大学部キャリアデザイン学科に、四月から新しく「放送ユニット」を開設（5ページに内容紹介）し、作家の小中陽太郎氏を客員教授として迎えました。小中教授同様に長年マスコミ界で活躍した野田昇司副学長とともに、新放送ユニットへの抱負を語っていただきました。

野田 小中先生にキャリアデザイン学科にお越し頂きたいとお願いしたのは、昨年の秋ごろのことだったでしょうか。

小中 そうです。去年の秋のことは実によく覚えています。そのお話があった日か前後に、学生たちと犬山城に紅葉狩りにいったんです。紅葉が本当に鮮やかで。実は、犬山城主だった成瀬正勝^{※1}は、学生時代の恩師です。私が研究している小栗風葉^{※2}という知多半田の小説家の存在を世に

知らせたのが成瀬正勝で、とても尊敬している方です。

野田 本学のある犬山とはご縁があったわけですね。これまでのいろんなご経験から、どういうことを短大生に教えたいと思っていらっしゃるのか、まずその辺からお聞かせください。

情報発信の学習を

小中 私は、伊勢湾台風の前年の昭和三十三年にNHKに入り、名古屋に来ました。わずか七年でNHKを去るわけですが、縁あって十五年前からまた名古屋に来るようになりました。その間名古屋は大きく変わり、「もの作り」が傑出する時代をむかえますが、報道メディアや情報という面では、NHK、CBC、東海テレビなどができたというものの、東京集中となり地盤沈下をおこした

と私は思っています。

ところが、「もの作りの中部圏」が万博を契機に情報の発信をする時代に大きく変わってきたと感じています。私は、この「発信する」ということを長く夢とし、執筆活動やマスコミを通しての発言、さまざまな活動をしてきました。近々名古屋でミュージカルも手がけようと思っていますが、東京を向いた大学教育ではなく、この名古屋の地から発信する時期が、やっと来たと思っています。そんな時にキャリアデザイン学科で「放送ユニット」を立ち上げ、スタジオをつくり、FM放送も始めるとうかがい、これは面白いと感じたわけです。

放送といっても、今は時代が違います。早い話がパソコン一台あれば発信できてしまう。放送に関するコースは、「放送局」コースではないと考えています。

野田 なるほど。今回は、短大部で



の開設ですから、二年で社会に出て活躍してもらわなければならぬわけです。その辺は、いかがでしょう。

小中 短大は、四大の半分という考え方は全然違うと思います。要するに充実度の問題です。人間としての成長は早い。四大の良さはもちろん多くありますが、ゆっくりしている。ややもすると三年生ぐらいまで高校の延長でできてしまう。ところが短大の場合は、入学した時点で大人です。あと二年で社会にでるのだと。だから短大は二分の一という考えは、大変な間違いですね。今ある社会の情報に学生たちが追いつくことが大切だと思っています。

放送メディアは万能か

野田 小中先生には前期、後期各2コマずつの科目を担当していただくことになりましたが。



小中 担当する科目のうち「私のマスコミ論」、「市民とマスコミ」は、まさに私がやってきていることですし、「放送と文学」、「放送と芸術」は、私が一番悩んできた問題です。放送なんか芸術じゃないんだとか、新聞こそが報道であり、ラジオ、TVの放送記者なんてのはいったい何だという時代がありました。

野田 「放送記者」と言っていたのが、いつの間にか放送という字がとれて「記者」に変わりましたね。そういう意識がどこかにあったんでしょうね。

小中 そうですね。放送の世界に身を置くことにコンプレックスすら感じる時代もあったのですが、逆にこのごろは「放送とは何か」といった議論、反省があまりにもなさ過ぎると思います。「オレたちひょうきん族」や「笑っていいとも!」などのヒット番組を制作した横沢彪^{※3}さん

テレビを読み解く

小中 最近のマスコミ学会には、大きな反省点があります。マスコミに関わる学科はたくさんあるけれど、いったいどれだけの人間がマスコミとかコミュニケーションに関わる仕事についているのだろうかという。マスコミの中からスターをつくるための放送学科ではなくて、自分で発信能力を使えること、パソコンで扱う内容を読む力、TVを見る力、人に話す力を培うことが、あらゆる産業に重要ではないかと思うのです。世の中には実にいろんな職業があ

※1 成瀬正勝（1906～1973）
犬山城第11代城主。作家名雅川澗。1930年、堀辰雄、井伏鱒二らと「新興芸術派倶楽部」を結成。代表作は、「芸術派宣言」。のちに文壇を去り東洋大学、東京大学、昭和女子大学、成蹊大学等の教授を歴任。

※2 小栗風葉（おぐりふうよう）（1875～1926）
明治の小説家。愛知県知多生れ。本名加藤磯夫。尾崎紅葉門下。1896年、「亀甲鶴」にて文壇登場。「恋慕ながし」、「青春」、「恋ざめ」、「世間師」ほかの力作を発表。1909年、豊橋に引退、大正期にはおもに通俗小説を執筆し文壇から離れる。

4月から「放送ユニット」 学内にFM放送スタジオも

短期大学部副学長 野田昇司

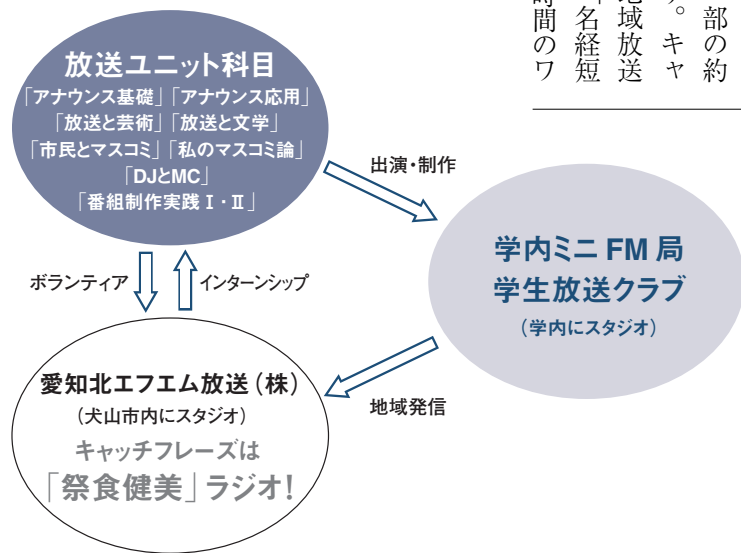


かにかも放送スタジオにて (岐阜県可児市)

二年目を迎えたキャリアデザイン学科は、新しい科目を増やしました。放送関連業界で仕事をしたい人のためのユニット(科目群)です。放送の仕事は多岐にわたっています。ここでは、表現の仕方やラジオ番組の作り方を実践的に学びます。

学んだことは学内ミニFM放送局で生かしてもらいます。学生の声や、学生が作った番組が、学生の好きな音楽が電波に乗って流れます。

さらに、犬山市にコミュニティFM局「愛知北エフエム放送」が七月開局を目指して準備を進めています。犬山市と扶桑、大口両町、それに小牧、江南、各務原の三市の一部の約三十万人を対象にしています。キャリアデザイン学科ではこの地域放送局と連携を深め、週一回の「名経短大アワー(仮称)」という一時間のワ



イド番組を持つことを計画しています。我が校の教員、学生が毎回登場します。

「放送ユニット」の担当教員は、長年テレビラジオの世界で活躍してきた小中陽太郎さん、元CBCアナウンサーの颯田圭子さん、元NHKアナウンサーの私です。

さあ、いっしょに放送の世界で遊ばしましょう。



颯田圭子さん

経営学部長に岡本教授



学ぶ喜びを 肌で感じる学部を

大学冬の時代に大役を仰せつかり、責任の重さを痛感しています。従来、ほとんどの大学の経営学は大企業中心に教えられてきました。しかし、わが国では、企業の九十%以上が中小企業であり、また、卒業後もそこへ就職する者が多数を占めています。そう考えると、本学部は中小企業を中心とした経営学教育に特化してその特色を打ち出し、中小企業の後継者や、そこで活躍できる人材、さらにはベンチャー起業家を目指すための教育体制を整えることが新たな目標となります。

今日、単に経営を学ぶと言ってもその領域は広く、基礎学力・倫理観・コミュニケーション力など、人間として社会人として必要な能力を身に付けることも大切になっていきます。こうした能力を養うために、本学部では少人数教育に力を入れています。

現在、少人数教育として、習熟度別にクラス分けしている英語教育、情報処理教育、日本語レッスンの他、

私自身もこれからはもっと現場に足を運び、企業経営の実態を把握して講義にも反映させるなど、教員と学生が共に学び、共に成長し合えるような機会を増やしていきたいと考えています。このような学ぶ喜びを肌で感じることでできる学部を目指して努力してまいります。皆様方のご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

経営学部長 岡本秀昭

from Munich

今年も楽しく
合同ゼミスキー旅行

今年も大学では一月に、短期大学部では二月に三泊四日の日程で合同ゼミスキー旅行が実施されました。参加者は大学五十二名、短大六十名。

この旅行は大学名誉教授川口光雄先生が、三十数年前にゼミ旅行としてはじめられ、それが体育科の行事となり、現在では合同ゼミスキー旅

行として受け継がれている伝統行事です。初参加の法学部一年、七里光平さんに感想を語ってもらいました。

一番楽しかった事は、他の学部の人たちとの交流です。大学ではほとんど出会うことのない他の学部の人たちと一緒においしいご飯を食べたり、一緒に滑りながら話をしたりしました。夜には先輩の部屋に集まって、大学のこと、将来のことなど、

いろいろな話をしました。

ゲレンデは、「とにかくスゴイ！」の一言です。景色は今まで見たことのないほどの素晴らしさ。ナイターのゲレンデは幻想的な雰囲気でした。スキー初心者の人たちは先生方の指導を受け、二日目は一番難しいコースへ行くまでになりました。

先生方や先輩方の大学では見られない一面をたくさん見ることができました。合宿に行つて本当によかったと思います。友人と窓から眺めた

ミュンヘンだよ

法学部助教授 辻田 芳幸

昨秋から「在外研究」でミュンヘンに滞在している。ドイツ的休日過ごし方を紹介しよう。

ドイツの休日はとても静かだ。澄んだ空気に高く伸びた街路樹から小鳥の透き通った声が聞こえる。

日本では休日のデパートは大にぎわいだ、キリスト教文化圏のドイツではそんなことはない。午前中のパン屋以外はほぼ休業。だから買い物は前日までに済ませておいて、公園や美術館、コンサートに出かける人も多い。

ミュンヘンには絵画館が三つある。そのうち一八三六年に開館したアルテ・ピナコテークは、イタリア・ルネサンス様式の壮大な建物に一日では到底回りきれないほどの古典絵画を所蔵している。日曜日には入場料が特別にユーロになるから、ルーベンスやデューラーを目当てに何度も出かける。

コンサートは毎日どこかで開かれていて、オペラも頻繁にある。いずれもが歴史の醸し出す豊かな雰囲気になっている。歌劇場には子供達の姿も多い。ピロードの緞

帳が人々の生活にとけ込んでいるのだ。

法律は社会の一システム。社会の有様や人々の価値観とは切り離せない。研究の合間に教科書には書かれていない法律のバックグラウンドを体感しておきたい。



星も忘れることができません。次回もぜひ参加したいと思っています。



漢字検定に四十名合格

文章検定には二名

平成十七年度の漢字検定および文章検定試験が昨年十一月に学内（本学は準会場指定校）で行われ、漢字検定に八十六名、文章検定に二名が受検しました。

合格者は漢字検定四十名（2級九名、準2級十名、3級二十一名）、文章検定二名（いずれも3級）。十一月二十一日、表彰式が行われ、経済学部長から賞状が手渡されました。

初挑戦で漢字検定準2級に合格した浅野貴洋さん（経済1年）は「うれいす。自信がつかました」と喜びを語っていました。

（経済学部教授 伊藤幸男）

こうして就職を決めました 今春卒業生



2月17日、学内での合同企業展には約70社が参加

ペースをつかむ

松田亮平さん（法学部企業法学科）
就職先〓名古屋拘置所、刑務官



分などを自分でペースをつかめたの

三年の時、学内の「公務員対策セミナー」に参加し、採用試験までの時間配

がよかったと思います。

父も勤めたことのある名古屋拘置所に勤務することになりました。試験の作文は「モラルについて」でした。自分のミスが自分だけではないという責任の重い職場です。一年次で単位の取り方に迷ったことが最後まで響き、余裕のない就職活動でしたが、その割にラッキーでした。

自分を素直に出す

金松花さん（経済学部現代経済学科）
就職先〓リコー中部



名古屋の丸の内あたりで仕事をしたいという思いがかないません。OA機器販売の若々しい会社で、営業を担当します。お客さんが満足でき、自分も満足できるよう心がけます。

中国・吉林省の実家は、北朝鮮との国境近くです。日本語学校に一年、この大学で四年。言葉の不安はなく、親も日本での就職をすすめてくれました。表現は上手でなくても自分を素直に出せば、持ち味が相手に伝わります。この大学は資格取得にものごく熱心で、私はパソコン関係の資格を三つ取りました。

アクションを起こす

寺西理江さん（短期大学部保育科）
就職先〓愛知県蟹江町、保育士



インターネットで市町村の公立保育園

他の大学の音楽科で一年学びましたが、方向転換してよかったです。就職先はイ

を調べ、採用予定の問い合わせをし、「予定がある」と聞くと一人で出かけた。就職は、待っていても、そう良い話はありません。アクションを起こすことです。顔と名前を覚えてもらうため、根気よく通うべきです。保育士として言いたいことは、はっきり言う。怖いけれど大好きな先生、と思われるように努めます。結婚後も続ける、やりがいのある仕事だと思います。

堅実な職場を選ぶ

谷内洋介さん（経営学部経営学科）
就職先〓愛知県警察本部



合同企業展にも出ましたが、結局、公務員に決めたのは父の影響だと思えます。他の役所とは違い、体力的な不安もありますが、堅実な職場です。半年間の警察学校ではきつい生活になります。走って、逮捕術や柔・剣道を学んで、体力をつけて…。一年の時のゼミは厳しい先生でしたが、三、四年になって、いい先生だと思えるようになりました。きちんとすれば、きちんと対応され、忘れられません。四年間に出来た友だちが僕の財産です。

あきらめないで

後藤千鶴さん（短期大学部商経科）
就職先〓山口銀行



六十社に上りました。その活動を通じて世の中のいろんなことを知りました。

就職は初めから一つに絞らず、手当たり次第。小当たりのものまで入れれば約

姉が一年前から金融機関に勤め出し、それを見て、銀行に気持ちが傾きました。正直いって挫折感も味わい、落ち込んだときもありますが、一番大切なのは、あきらめないことです。卒業レポートはどこかで地域経済につながるよと先生に言われ、私は「血液型と性格」、友だちは「映画と歴史」「ネコと三味線」などを書き、バリエーションに富んでいました。

失敗を恐れずに

夢をもってチャレンジしよう

キャリアセンター長 小久保 純一

就職活動は、一人一人の夢を実現させるためのスタートとなるものです。「自分はこうなりたい」という明確な目的意識を持ち、それを具体的な行動に結びつけるために、積極的にどんどんエントリーをしてほしいものです。多くの学生の皆さんと接して感じるのは、素直で大人しいのですが、多少の挫折にめげることなくチャレンジしていく逞しさに欠ける点があることです。人生においては、失敗しない

ことよりも失敗しても立ち上がることにこそ価値があるのです。就職活動においても数多くエントリーし、不採用になってもそこから何かを学ぼうとする貪欲さが必要です。そして、企業が求める人材はそういうバイタリティに溢れた学生なのです。本学においては、ゼミの教員やキャリアセンターの職員が学生の皆さんの就職活動をきめ細かくバックアップする体制を整えています。特に今年度からは、

キャリアアップ講演会 二百名の学生が参加

経済・経営両学部の専門ゼミ合同の「キャリアアップ講演会」が昨年十二月十六日に行われました。講師は、ジャパン興業株式会社（一宮市）赤塚久男社長。

「私は、商売は『笑売』だと考えています。笑顔売って、元気をもち帰ります。何ごとも前向き



に考え、挨拶を大切に、両親に感謝する心を大きくすることが大切です」赤塚社長の話は参加した二百名ほどの学生たちに深い感銘を与えたようでした。受講者を代表して、二人の感想を。

「今日この場にいることができたことに感謝し、両親や友人たちに感謝し、なにごとにも感謝していきたいと思えました」（経営4年、青山哲也さん）

「当たり前と思わず、すべてに感謝することの大切さ。人に与えた分しか自分に返ってこない。たくさん与えることの出来る人間になりたいと思えました」（経営3年、久野理恵さん）

「キャリアアップ講演会」は五月に第2弾が予定されています。
（経済学部教授 伊藤幸男）

イラクでの4か月

平成11年法学部卒業 大石 誠さん



カンボジアへ旅立ち

平成18年法学部卒業 花城可光さん

今年三月に卒業した花城可光さんはボランティアのため、一年間、カンボジアへ行くことになりました。

就職は今でなくてもできるだろう、それよりも私たちを必要としているところへーそんな思いからです。

高校生のとき、同時多発テロが起きました。国際情勢に関心を

深め、発展途上国に目を向けるようになりました。東南アジアにはストリート・チルドレンが多いことも知りました。そこが出発点です。



法学部OB、大石誠さんは現在、陸上自衛隊久居駐屯地（三重県津市）に勤務しています。昨年、イラクに派遣されました。

陸上自衛隊の普通科

と呼ばれる職種に所属して、射撃の訓練や演習に励んでいます。一番自分を成長させた貴重な体験として心に刻まれるのが、二〇〇五年二月から五月にかけての「イラク派遣」です。警備担当として、毎日あらゆる場所に派遣され、給水施設の建設などで活躍する自衛官を警備していました。



四年前、沖縄から名古屋経済大に入学。学内にボランティア・サークルを立ち上げ、海外から来た児童たちの日本語の勉強を手伝ってきました。また他大学の仲間らと小学生チーム相手に球技などを楽しんできました。

昨年の夏休み、ボランティア・ツアーに応募しました。訪問国はカンボジア。プノンペン大学のグループとともに、橋、トイレ、牛車の道を整備する仕事を手伝い、小さい村に入り、ノートや鉛筆を贈りました。貧しい村の人たちですが、心が温かい。真つ暗な家の中で語り合う中で「本当の発展とは、真の幸せとは何か」と考えさせられました。

マザーテレサ・エイズ病院はHIVに感染した患者さんと、HIVに感染して生まれた子ども

まだまだ混乱が続く地域ですから、ある程度の身構えをして臨みました。しかし、思っていたよりも住民感情は良く、砂漠の真ん中にポツリとある小さな村に給水施設や病院の建設に訪れたときは、村をあげての大歓迎を受け、とても感激しました。アクセスも悪い村でしたから、給水施設や病院は住民にとって貴重なものだったのでしょう。

反対に厳しかったのが、現地の気温です。二月頃は日本の二月と同じくらいの寒さでしたが、四月になると、いきなり暑くなります。日中の気温が五十度を超えます。乾燥しているので、うだるような暑さではありませんが、まさに熱風の中に身を置くという感じでした。夜になると三十度くらいまで下り、一日で二十度の気温

もたちの施設です。院内の様子、これまでの出来事などについて、シスターの体験談を聞きました。庭の草むしりや歌で交流、喜ばれました。現地では英語は通じません。

カンボジアは内戦終結から二十五年、復興途上です。小学校も行けない子がたくさんいます。私には七歳の妹がいますが、その年頃ですよ。考えさせられます。

プノンペンで日本のNGO（非政府組織）スタッフと知り合いになり、とりあえず彼の周りで一年滞在、カンボジアを支援したいと希望する日本人の橋渡し役をしたと思います。

在学中に英語を勉強したのがよかった。日常会話の自信はあります。その実力は「カタコト以上、ペラペラ未満」というところですか。

差があり、水分を何度も補給し、体調管理に気を遣いました。

そんな環境ですから、現地の人たちにとっては水は大切な物資です。きれいな水がなかなか手に入らない。私たちがおこなった給水施設や病院の設置は非常に意味のある復興支援なのだと、あらためて感じました。

四か月間は毎日が慌ただしく、あつという間に過ぎました。イラク派遣を経て考え方も広がり、自衛官としてのモチベーションも向上したと思います。

私の人生に大きな影響を与えてくれた濃密な体験を次の活動につなぎ、国民に信頼される、誠意ある自衛官を目指していきたいと思っています。

日本国憲法が私たちの生活にどのような意味をもっているかを可能な限り平易に述べた本です。

ここでは、日本国憲法の骨格が、天皇を中心に行った侵略戦争という苦い経験と欧米で形成され発展してきた近代憲法の伝統を踏まえて成り立っていることを論証しています。

「日本国憲法の価値
命と尊厳の基準として」
新美 治一 法学部教授 著
八朔社

**卒業生の
「会計人会」発足**

本大学及び大学院で会計士や税理士になったメンバーで「名古屋経済大学会計人会」を四月一日発足させました。対象者は約七十名、現会員二十七名。

幹事長は佐藤豊和さん（佐藤豊和税理士事務所 電058126212265）です。設立の趣旨、会則などは同会ホームページに。
<http://www.meikai-kaikeijin.com>

運営戦略推進室を設置

「名古屋経済大学運営戦略会議実行プログラム」の策定（平成十七年十月十九日）に伴い、四月一日より、本学総務部内に「運営戦略推進室」が設置されました。今後、本推進室が中心となって実行プログラムの積極的な推進を図っていくこととなりました。このほか、事務局内に「教育・研究支援プロジェクトチーム」も設置され、「特色ある大学教育支援プログラム（特色GP）」、「現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代GP）」の申請採択に向けた取り組みや科学研究費補助事業を対象とする研究を支援していくこととなりました。

前者は、戦争が一切の人間の価値を奪いさるものであるが故に戦力の不保持・国の交戦権の否定を基礎にこれを放棄すると定めていることを主な内容とし、後者は、憲法はもともと人・市民の尊厳を確保するために「国家権力を規制する国の最高規範」であることを解き明かしています。

日本国憲法では、この二つが有機的に結合しています。戦争は、例外的に結合しています。戦争は、例外なしに、人間にとって根源的な意味をもつ命を惜しみなく奪っていきま

人事異動

四月一日付 退職は三月三十一日付

就任 経営学部長 岡本 秀昭
同 キャリアデザイン学科長 武田 康雄
同 附属市郷幼稚園副園長 船井 廣則兼務

大 学
新任 経済学部 講師 加藤 秀弥
同 人間生活科学部 講師 李 温九おんく
退職 教授 刀根 陽
同 助教授 松井 元子
同 助手 吉田 幸代

短期大学部
新任 保育科 教授 中井 良宏

退職 教授 安藤 潔
同 教授 加藤 大博

大学 短期大学部
新任 学生相談カウンセラー 野副 紫をん

幼稚園
新任 教諭 沖田 夕夏
同 教諭 久保 剛
退職 副園長 渡辺 和子
同 教諭 寺岡 幸子

事務局
昇格 事務局次長 松田 和夫
同 図書館 部長 加藤 裕子
所属変更 総務部 部長 加藤 達也

基本的な人権を踏みにじっていきます。戦争には、必ず国家の大義があり、戦争に勝利するために国に対する主要な規制がはずされ、国民の無償の奉仕が求められます。

日本国憲法は、戦争放棄・戦力不保持・交戦権の否認という原則を扇の要とし、国民主権と基本的人権が保障される構造になっています。戦争は、人類に対するあらゆる犯罪のうち最大の犯罪です。日本国憲法は、戦争を放棄したのです。日本国憲法の価値は、人の命と尊厳を、戦争を



しないことによって保障する、まさにここに求められることを論証しようとした本です。是非、お読み下さい。

日本の教育をリード 市邨 芳樹 名経大、生みの親



市邨学園のあゆみ

| | |
|-------|--|
| 1907年 | 名古屋女子商業学校設立 |
| 1923年 | 名古屋第二女子商業学校開設 |
| 1945年 | 財団法人市邨学園を組織 |
| 1947年 | 名古屋女商中学校、高蔵中学校を設立 |
| 1948年 | 名古屋女子商業高等学校、高蔵女子商業高等学校設立 |
| 1951年 | 学校法人市邨学園に組織変更 |
| 1965年 | 市邨学園短期大学（商経科・家政科）開学 |
| 1967年 | 市邨学園短期大学に保育科開設 |
| 1968年 | 市邨学園短期大学附属幼稚園開園 |
| 1979年 | 市邨学園大学（経済学部消費経済学科）開学 |
| 1983年 | 市邨学園大学を名古屋経済大学と改称し、男女共学に移行 経済学部経営学科開設 |
| 1988年 | 英語科開設 |
| 1991年 | 法学部企業法学科を開設 |
| 1999年 | 法学部国際関係法学科開設 |
| 2000年 | 大学院法学研究科法学専攻修士課程、企業法学専攻博士後期課程開設 |
| 2002年 | 大学院会計学研究科会計学専攻修士課程開設 経済学部経営学科を経営学部経営学科に改組 経済学部消費経済学科を経済学部現代経済学科に改称 市邨学園短期大学を名古屋経済大学短期大学部と改称し、男女共学に移行 現代コミュニケーション学科開設 市邨学園高等学校を名古屋経済大学市邨高等学校に、市邨学園中学校を名古屋経済大学市邨中学校に、高蔵高等学校を名古屋経済大学高蔵高等学校に、高蔵中学校を名古屋経済大学高蔵中学校にそれぞれ改称、併せて男女共学に移行 |
| 2003年 | 法学部法学科開設 |
| 2005年 | 人間生活科学部（幼児保育学科・管理栄養学科）を開設 短期大学部の商経科、生活文化学科、現代コミュニケーション学科を統合し、キャリアデザイン学科に改組 |
| 2006年 | 市邨学園創立100周年を迎える |

※次号にも一〇〇周年特集記事を掲載します

法人本部



末岡 照章 (理事長在任1981~現在) 末岡 好 (理事長在任1956~1981) 市邨 芳樹 (校長在任1907~1941)

公立学校長と 私立学校長を兼任

一九〇七年に名古屋女子商業学校を設立した市邨は、校長として学校運営にあたり、一九二二年から校長に就任しました。一方で、名古屋商業

私立学校長の 公立学校の設置を嘆願

市邨は名古屋女子商業学校に加え、名古屋第二女子商業学校を設立し、教育の機会均等を先導してまいりましたが、愛知県、名古屋市に対しても公立学校増設を唱えました。今では考えられない話です。当時、小学校では入試科目に重点を置いた準備教育（いわゆる受験勉

文部省委嘱で海外視察

一九一九年、市邨は文部省から欧米各国における商業教育の調査・視察の嘱託を受けました。現在と違い容易に海外に渡航できるわけではなく、女子商業教育の更なる発展を考えていた市邨にとって海外視察の嘱託は願ってもない機会でした。九月二三日、神戸出帆の熱田丸で一年余にわたる外遊の途に過ぎましたが、その船室は同年第一次大戦のパリ講和会議に出席した西園寺公望全権が帰国の際に専用した部屋でした。

文部大臣要請を断る

市邨は、神戸を出発後、欧州各国を訪問、その後、大西洋を越え、アメリカ、カナダ、メキシコを経て帰国、一年余の視察となりました。

市邨の教育者としての名声は名古屋にとどまらず、全国に広まっております。その結果、思いがけない事態をも招くこととなりました。初の平民宰相として有名な原敬が内閣総理大臣の時、立憲政友会幹事長であった望月圭介が、原総理からの内命を受け、名古屋市議会議員の大喜多寅之助を通じて、文部大臣就任の打診を行ったというのです。

市邨は「せっかくの話ですが、私は名古屋女子商業のために尽したいと思います。」と断り通しました。

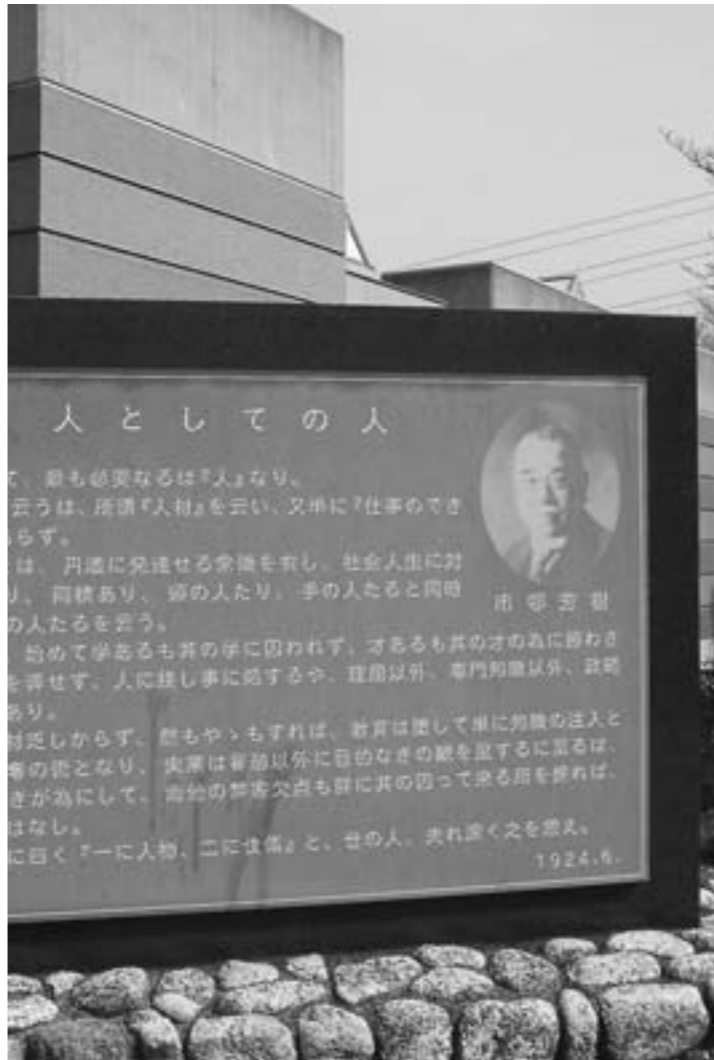
名古屋経済大学・名古屋経済大学短期大学の設立者である学校法人市邨学園は、二〇〇六年創立百年を迎えることとなりました。本学園が積み重ねてきた百年の歩みは二十世紀の歩みとほぼ重なり、二つの大戦を経験するなど激動の時代でした。本学園はこの百年の間、創立者市邨芳樹の教育理念「市邨精神」を受け継ぎ、変わることのない教育・研究

活動の歩みを進めてきました。市邨芳樹は、江戸から明治へと変わろうとする一八六七（慶應三）年四月五日、現在の広島県尾道市に生まれました。小学校を卒業後、広島県の官費留学生に合格、東京商法講習所（現在の「一橋大学」）に派遣され、一八八七年市邨は首席で卒業し、尾道へ帰郷、その年の九月わずか二十歳で尾道商法講習所を設立しました。

講習所の評判は高まり、新たに公立の尾道商業学校に移管し、市邨は校長兼教諭として就任しました。五年後、名古屋商業学校（現在の市立名古屋商業高等学校）に赴任。校長兼教諭としてさまざまな改革により、同校は急速に発展を遂げました。一方で講習所設立当初から女子に対する商業教育を実践するという構想を常に胸に抱いていました。

市邨は、「本当の商業教育とは、本当の人間教育でなければならぬ」と考え、本学の建学の精神でもある「一に人物、二に伎倆」の人物教育を掲げていました。世間一般には学科の成績の優劣のみを問題にする傾向があることに對し「人の価値は学業成績によってきまるものではない、試験のための勉強でなく常に自学自習、常時試験の心構えであるべきだ」との考えから、創立以来在校生に對し、定期試験と成績発表を行っていませんでした。

定期試験も通知表もなし



大学キャンパス内に設置されている市邨芳樹の碑文

市邨は名古屋商業学校を設立し、一九〇七年名古屋女子商業学校を設立。日本初の本格的な女子商業教育を実践することとなりました。これが、現在の名古屋経済大学市邨高等学校の始まりであり、本学園の始まりともなっています。

その後、より多くの人々に教育の機会を与えたいと一九二三年には名古屋第二女子商業学校を設立（現在の名古屋経済大学高蔵高等学校）が設立された。市邨は「本校生徒は全部優等生である。学校長が推薦する生徒を無条件で採用するところであれば生徒は向けない」と断言したということ。